

## 座談会「年金相談会 100回をふりかえる」

コスモの活動の柱である「年金相談会」は、平成23年1月に第1回を開催し、本年4月で、きらら・ういんぐの相談会が通算100回を数えるに至りました。また開催場所も、きらら・ういんぐ以外にも練馬区内2カ所で毎月定期的で開催しております。今回100回という節目を迎えるにあたり、これまでのあゆみをふりかえり、今後の展望につなげたいと考え座談会を行うこととしました。

〔座談会出席者：石渡 攻、門脇 智恵、後藤 勝、篠原 忠、飛田 隆志、萩原 一郎、松尾 英典〕

萩原) 相談会をスタートさせて、100回という節目を迎えた訳ですが、速かったかというのが実感です。現在では練馬区の障害者地域包括支援センターきらら、ういんぐと区民・産業プラザ(ココネリ)、そして勤労福祉会館の4カ所で定期的で開催できるようになりました。この辺りから振り返っていただきましょうか。

篠原) 最初のころは、会場が毎回違っていただけもあり、相談に来ていただく方にご不便をおかけしたと思います。それが平成24年4月からきらら・ういんぐを会場に使わせていただけるようになり、相談を希望されている方や支援に携わっている方々にコスモが定例で相談会をやっているということが定着していったことが非常に良かったと思います。

松尾) きららを利用させていただくようになったのは、練馬区精神障がい者家族会さんの働きかけもあったと思います。家族会さんとは勉強会を通じて、それ以前に関係がスタートしていました。相談先が欲しいという希望をもっておられ、そのあたりのニーズとのマッチングがあってきらら・ういんぐの年間スケジュールにうまく入れていただけた部分もあると思います。練馬のきららと石神井公園のういんぐとで交互に開催できるようになったのは、非常にありがたかったですね。



年金相談会参加者

篠原) その後に、障がい者に対する生活全般にわたった支援としてライフプラン、成年後見など幅広い相談の場があると良いということで、平成25年12月から練馬産業連合会館を会場に二つ目の定例相談会を開催することになりました。

最寄りが桜台駅でそこから少し歩くのですが、真冬に雪の中を歩いたことは今でもよく覚えています。会館を建替えることになり会場をどうしようかという時に、ココネリのオープンと重なり、交通の便も良いということで変更しましたが、相談者の方にとっても非常によかったと思います。

門脇) 最も新しい相談会として、平成28年4月から毎月1回開催するようになった勤労福祉会館があります。ここでは通路のところのスペースを会場にしていますが、その奥にスポーツクラブがある関係で、利用する方に年金相談をやっているんだということが定着してきました。何か疑問があると相談を申し込むという流れができていて、成年後見や遺族年金、身体障がい者の方の障害年金など相談内容が多岐にわたっているというのが特徴になっています。

萩原) 相談員としての立場からみるとどのようなことがありましたか？

石渡) 私が相談会に参加するようになったのは、社労士の資格を取って間もない時期だったので相談を受けることにドキドキしていました。最初のころは不安でいろいろな資料を持ってきてしまい、とにかくカバンが重かったのを覚えています。それでも経験豊富なベテランの方々がおられたので、何かあっても安心でした。そうこうするうちに自分自身も慣れてきて、気がつくとき重いかばんは不要になっていました。社労士のように少しでも障害年金のことを学んできた者と一般の相談者との間には、非常に大きな知識のギャップがあると実感しています。私どもがかかわることで障害年金の受給につながり、安心して生活を送れるようになったと言われたことがありましたが社労士冥利につきますね。

後藤) 私が参加したときは、すでに相談会の体制が整っていました。自主研究会で勉強をしていたときに

社団コスモへの入会を勧められ、学んだことの実践の場を持たたことは非常にありがたかった。それと諸先輩方が真剣に相談者の方の話を聴いているということも印象に残っています。そんな姿を見ていましたので、相談者の方がどういう状況にあるのか、どんなお気持ちで来られているのかを常に考えるようになりましたね。

そんな中で納付要件がはっきりしないケースがあり、まず納付要件をお調べして、その後書類を調べて実際の受給につながりましたが、これは非常に喜んでいただいた。

篠原) 相談会をスタートさせた時は、慣れていないので皆コチコチになってしまい困りました。コスモ自主研究会や年金ゼミナールで学んだことを相談会という実践の場で活用してもらう、活かした知識にできるという場ができたのはとても大きかったと思います。

また、最新の情報に絶えず注意しているということも重要です。障害年金に関連する通達は毎年少しずつ変わっていることが良くありますが、改正内容を実際の相談の現場を使って提供できたのも有益だったと思います。

H23.2(2011)第2回相談会案内  
相談会場は貫井地区区民館

飛田) 今お話のあった自主研究会の会員の方が社団に入会し、実際の相談の経験を積んでもらうということとは別に、コスモが毎年開催している年金ゼミナールの基本コース、プロコースも役に立っていますね。勉強の場と実践の場、そしてベテランの方が傍におられるという良い流れができていますように思います。

萩原) 相談会の運営を実質的に支えていた事務局の立場としては、いかがでしょうか？

門脇) 相談予約の方との対応が大変という部分はありました。申し込んできた方と連絡がつかないとか送られてきたFAXが真っ白というようなこともありました。また、相談会での具体的な内容は非常に高度な個人情報であるということを肝に銘じ、個人情報の保護には何より気を配ってきました。

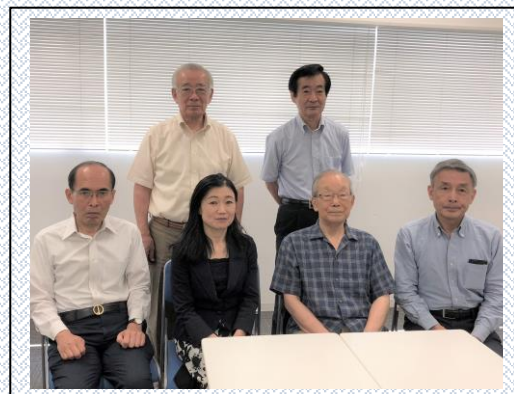
萩原) 今後の相談会のあり方としては、どのようにお考えでしょうか？

篠原) これからは、障害年金の受給面でのサポートだけでなく、年金を受給されている方の更新時のサポートができればと考えています。3級で受給できていた方が更新の際に級落ちになり、受給できなくなるというようなケースが良く見られます。受給した人を継続的にサポートしていけたらというのが相談会における今後の課題と考えています。

門脇) 勤労福祉会館の相談会では、成年後見や遺産相続に関する相談も時々あります。コスモが取り組んでいる法人後見は、障害年金を受給されている方にとって将来必ず役にたつものと思っておりますので、時間をかけて育てていきたいと思っています。

松尾) 以前参加していた障がい者フェスティバルで、コスモに興味をもってくださった方がおられました。相談会の案内を毎月送付するようにしたところ後日、相談者のご紹介をいただいたことがありました。施設や病院で同じようなニーズをお持ちのところは、まだまだ他にも存在していると思います。将来的にもっと多方面に拡げていけたらと思っています。

飛田) 自主研究会から私どもに入会してくる方が多いので、より一層の連携が必要と感じています。また成年後見を含めて幅広い相談に対応できる会員をいかに育成し、増やしていくかも重要な課題と思っています。



後列左から松尾、石渡  
前列左から後藤、門脇、篠原、飛田の各氏

萩原) そろそろお時間がきたようです。本日はありがとうございました。